



「なぜ防衛費を上げるのですか」

小学6年生が岸田首相へ送った手紙

(毎日新聞 2023年8月15日)

児童が書いた岸田文雄首相への手紙を入れた封筒が報道各社にも送付された。なぜ、防衛費を上げるのか。

東京都世田谷区の私立和光小6年の36人が今年初めに書いた手紙は、こう始まる。

「私たちは、社会科や総合学習で、沖縄のことや戦争のことを学んできました。戦争は遠い昔の話だと思ったのに、今も苦しんでいる人がいることや、今にも続く問題であることがわかりました」。

「戦争は怖いし、絶対にやっつてはいけなと思うていたのに、ニュースで防衛費をあげようとしていたのを知りました。そこで岸田首相に『ぜひ聞いてみたい、伝えたい』という声があがって、クラスのみんなで手紙を書きました」。

児童らは、政府の安全保障政策への思いや疑問をつづった。

「今、北朝鮮が日本にミサイルをうってきていますが、うってきているから軍事費を増やすのはダメだと思います」。

「逆に中国などが怒って、攻撃してくるかもしれないと思いました」。

「防衛費1兆円を他の税からとるのは、さすがにひどいと思います。他に案はないのですか？」

「なぜ自衛隊が、国を守る以外に攻めてもいいというルールになったのですか？」

和光小では6年生が1年間、沖縄の歴史や文化、社会問題を学ぶ。そして集大成として3泊4日で沖縄県を訪れている。1987年から続く平和学習だ。そして児童36人は、第二次世界大戦中の沖縄戦で家族8人を失った女性から「できれば、痛がらずに死にたいと願った」と言葉を聞いたという。

米軍基地は何のために日本にあるのか。児童らは沖縄から帰ってきてから討論した。中国やロシアが攻めてくるかもしれない。基地があるから守られている気もする。米軍基地が攻撃されて、周りの住民が巻き込まれるかもしれない……。

結局は、クラスでは「分からない」という意見が多数を占めた。

アメリカ側の思惑を知ろうと、米軍横田基地に「話を聞きたい」とメールを送ったが返信はなかった。担任教諭が知人を通じて米軍関係者にもアクセスしたが断られた。

米大統領だったバラク・オバマ氏は毎週6万5000通の手紙を受け取っていた。政策に批判的な内容であったとしても毎日10通の返事を出していたと英BBCが報じている。

和光小の児童らも23年2月1日、手紙を出した。住所を首相官邸、宛先は岸田首相とした。

岸田首相は2月24日の記者会見後、報道各社が追加で示した質問への回答で、手紙について言及した。

「一つ一つにお返事を出すことは困難でありませんが、安全保障政策については、国民の皆さんのご理解を得られるよう努めていきます」

そして担任教諭から児童にこの「回答」が伝えられた。手紙で書いた質問は多くの人が疑問に思っていること。もう少し、しっかり答えてほしい。そんな声が上がリ、児童らは再び岸田首相に手紙を出したが、音沙汰はなかった。



古い記事ですが、保存をしていたのを思い出して掲載をしました。小学6年生が皆で語り合い、そして第二次世界大戦の沖縄戦争に巻き込まれていった沖縄の地を訪問し、自分たちの目と耳で知りえた記録を綴り、「なぜ軍事費をあげるのですか」との問いを手紙で岸田首相に送ったという記事です。

あらためて、私たち大人が子どもたちにわかりやすい言葉で語る責任があると受け止めたと思います。

(事務局)

気づいたこと・感じたこと



ドイツの新聞、「フランクフルトアルゲマイネ紙」の記事も丹念に追っております。気になった小さい記事。その記事を要約したものです。

戦争での「稼ぎ屋の存在」は、特に目新しいものではないかもしれませんが、何かご参考になればと思ってお送り致します。

(東京練馬区在住)

元総評本部書記・百済 勇

「現在、世界で起きている様々な危機や戦争によつてドイツの兵器製造会社、「ラインメタル社」は、活気に溢れています。過去9カ月で受注残高は42%増大し、約370億ユーロ(約5兆8900億円)に達しました。デュセルドルフに本社を置く「ラインメタル社」の社長、Armin Pappeger氏は、「多くの国で劇的に増大した兵器需要に我が社、『ラインメタル社』を必要としており、それは記録的なレベルでの受注と受注残高がそれを示している」と述べている。

続けて社長は、「2023年末までに約400億ユーロ(約6兆600億円)、2025年は約500億ユーロ(約7兆9500億円)になる可能性がある」と述べた。弾薬を主に生産しているスペインにある子会社の来年2024年には、売上高は5000万ユーロ(約79億9500万円)となり、大砲の弾丸の生産だけでも3年間で約90%の増約なのだ。2024年の防衛需要の成長率は、25%〜30%と予測されています」と述べている。

2024年にはドイツの納税者だけで130億ユーロ(約2兆670億円)から150億ユーロ(約2兆8500億円)の増税があり、そのうち100

億ユーロ(約1兆5900億円)は、ドイツ連邦軍向けだが、残りの武器と弾薬はウクライナへ送られている。その支援額は約50億ユーロ(約7970億円)に達する見込みである。また2024年には約2億5000万ユーロ相当の車両が、キエフにある「ラインメタル社」の子会社がボクスターベースのタンクの供給契約は、約25億ユーロ(約3970億円)を予定。「ドイツはそのような戦車を何百両も必要とするだろう」とラインメタル社合 弁会社は期待している。

同社の時価総額は、2022年2月にロシアによるウクライナ侵攻が始まって以来、ほぼ3倍の約120億ユーロ(約1兆9000億円)に達している。「ラインメタル社」は2023年、通期の売上高を74億ユーロ(約1兆1800億円)から76億ユーロ(約1兆2400億円)とする見通しを発表した。前年は64億ユーロ(約1兆0349億円)だった。第1四半期から第2四半期までの売上高は13%増の46億ユーロ強(約7300億円)、営業利益は17%増の3億8700万ユーロだった。

(フランクフルトアルゲマイネ紙)

2023年10月27日

軍事産業の実態を知る一つの報告であると受け止め、報告者の了解のもと掲載をいたしました。(事務局)



希望ある未来はどいつ?

安倍政権以来、「この国は「自分さえ」「今さえ」「金さえ」の時代になってしまったように感じる。昨年発覚した自民党派閥の裏金疑惑には、あま

れるばかりだ。多くの国民は物価高の中、実質賃金が上がらず、今日を何とか生きるのに精いっぱいという気持ちなのだ。しかも、今や私たち団塊世代は「8050問題」「7040問題」に直面をしている人が少なくない。80代、70代の高齢の親が、50代、40代の子どもの生活を支えるため、経済的・精神的な負担を抱え込むという問題で、子のひきこもりの長期化により、孤立や貧困の恐れもある。

もつそろそろ、米国一辺倒の政治をやめてほしい。そして、若者に希望ある未来を語れる政治家の出でくることを強く望んでいる。

(千葉県・村山正栄さん寄稿)

東京新聞・発言欄・投稿より

【】8050問題・7040問題

「50代のひきこもりの子と80代の親、40代の子と70代の親。ひきこもりが長期化して、当事者が中高年に達し高齢の親の問題と併せて深刻な社会問題として浮上している」



今・東日本大震災を振り返る!

能登半島を中心とした新年早々から大地震、2024年も不穏な幕開けとなった。

そして今から13年前の東日本の大震災を思い出す。外出中の私は次第に揺れが大きくなり居たたまれずに地べたに座り込んでしまった。

ようやく揺れは収まり、自宅への帰り道に目にしたのはブロック塀の崩れ、屋根瓦の落下。その時である。三月であるにもかかわらず一寸先が

見えない「猛吹雪」が。この世の終わりかときえ思った。戻った自宅は足の踏み場もない。しかし不思議とテレビは落下もせず、その画面は「津波にのまれる人や家屋の恐ろしい光景」であった。見るに堪えなくスイッチを切るが、しかししつかりと目に焼き付けておこうと決意をして再びスイッチを入れる。数時間後にやってくる再度の強震。戸を開けると目の前にある電信柱が左右に大きく揺れている。

そこに福島原発の「水素爆発」発生のニュース。現地から60キロ離れた郡山の地にも避難者がやってきた。その皆さんの生活の場は公共施設（ビックパレット）のホール。床に引いた薄べりの布団と毛布が一枚。一坪から二坪足らず、それが避難者の居室である。

小さな子供を連れられた親子もいた。そこで「我が家へ」と考えるが、いつまで続くかわからない避難生活を思うときその決断はできなかつた。そしてほぼ毎日避難所に出かけて行つた。また仮設住宅も訪問をした。それで紛らわす自分を見る。そして仲間ができ、今も交信が続けられている。

また家の向かいの一人住まいの老女を訪ねた。「不足している物はありませんか。灯油はどうですか」と尋ねる。その老婆が曰く。「コメがあり、醤油、味噌、塩があれば十分という時代に育つた。それに電気もついているし『こたつ』もある。それで十分」との答えが返ってきた。やがて夏も近づきその老婆は子どもの許へと。家を去る時に頂いたのが「イカニンジンづけ」である。イカも人参も昆布も痛まない。老婆の「耐える生活」の知恵を頂いた。以来、わが家では「イカニンジンづけ」を欠か

すことがない。

これまでの文は3月14日以降4月19日までの間、県内外の仲間を送り続けたメールからの抜粋である。そして最後のメールに「私たちは消せない火を燃やしてしまった」と書いた。

そして、今般の能登半島の地震である。

津波による被害よりは家屋の倒壊などによる犠牲者の報道は絶えない。しかもこの寒波である。避難所で暮らす皆さんの生活を思う。厚着をしているか。ホッカイロは、毛布は。トイレは、水は、食べ物。そして灯油は、ガソリンは。

東日本の災害時の「3月26日」、磐越西線が開通された。北陸經由の貨物輸送が始まり、私たちはガソリン、灯油の供給を得ることができた。命を失い、家や財産を失つただろう能登地区の多くの住民を思うとき、あらためて思い起こす福島の記憶である。
(文責・降矢)

報告・提言のひろば

■直近の政治状況を見ると、自民党はパー券による裏金作りで完全に国民の信頼を失い、自民支持率・内閣支持率とも下落が止まりません。今こそ「自公の腐りきつた政治にNOをー平和憲法を護り・活かし、市民と労働者の力で政治を変えていこう」と社民党の政策をアピールしていく時だと思えます。来年は総選挙が行われる可能性が高いと思われませんが、「ここ」で何としてでも議席を増やし、社民党の存在感を高めていけるような活動をしていきたい、と思っております。

■喧噪の世相とは裏腹に、我が家では病気や大きな事故もなく無事に過ごせた事に感謝したいと思っております。OB/Gニュース1月号受け取りました。

■昨今の政治の劣化と議員の腐敗は呆ればかりです。やはり全員、クビにすべきです。そして世襲禁止とし、選挙費用を全て公費負担とすべきです。平和な格差の無い社会を目指す人のみが議員になる必要があります。選挙に立候補する前に、立候補する資格があるか否かを試験すべきです。選挙区の住民総会を開催し、オーディションを受けて住民の過半数(総会は70%以上の参加者で成立。)の同意を得なければ立候補不可とします。もし、住民総会の参加者が70%未満の場合、同意が過半数未満の場合はその選挙区での立候補は出来ないものとします。その結果、選挙区から立候補者が無い場合は、その選挙区は議員が無いこととなります。「何をアホなことをぬかしているんだ。お前は馬鹿かー」と言われると思えます。もちろん、こんなことを出来る筈がありません。しかし、昨今の政治と議員のアホさ加減を見ていると、こつとも言いたくなります。私たちは、本当に私たちと共に歩み、私たちのための政治を追求しましょう。

■政局は「裏金」問題で揺れ動き内閣支持率も下落しまくり、今年の国会開催までどの様な落としどころになるのやら、自民の支持率が下がっています。野党も伸び悩んでいます。ここが頑張り所です。小生も来年は傘寿を迎える事となりました。先般も報告した気がしますが昨年の6月に無時「傘寿」を迎える事を祈って同級会を開催し

ました。55名中13名の参加。物故者も13名(その時に判明した人数)。他は存命ですが参加が叶いませんでした。一抹の淋しさを感じながら小生も人生のカウントダウンを刻みながら何とか進む事としました。

■昨今の自民党の状態が毎日マスコミで取り上げられ、政治と金の問題と政党の在り方、そして、自民党政権、なかんずく、岸田政権の姿勢が大きな問題として報道されていますが、もう一つ国民の関心が高まりを見せていないように見えます。なぜなのでしょう。政党不信、政治不信が国民の中ではいつものこととして、マンネリ化してしまっているのでしょうか。労働組合の反応も見られないようですが、どういふことなのでしょう。

か。今こそ、国民生活を守るべき労働組合の社会的責任として、今日の問題を運動課題とすべきではないかと思えます。我々高齢者、年金生活者は物価高に直撃され生活は大変な状況になっています。そして、医療費、介護保険の負担は増えることが明らかであります。自民党の政治パー

ティをめぐる不正な行為による裏金は、私たち高齢者、年金生活者、低所得者から見れば桁違いの裏金疑惑は断じて許しがたいものであります。このような自民党議員に「円でも安く買ひ物をしている人たちのことは全く眼中にないことでしょうか。即刻議員を辞めるよう強く求めます。そうした運動を取り組みたいと思えます。年末の30日には街頭で訴えました。国民が真剣に考えないと日本の政治は、自民党政権の政治は国民生活とは無関係なものになってしまいます。本来ならば、「岸田政権は退陣しろ」という要求を掲

げた運動が全国各地で起きなければならぬ問題ではないでしょうか。労働組合運動の経験者としては非常に残念です。

■一年間有難うございました。今年は辰年、過去の辰年には戊辰戦争(1868年)や日露戦争1904年、血のメーデー(1952年)、ロッキード事件など政変の年とも言われ、戦後5回しかない辰年の3回で総選挙が行われていたとの事です。今年はどんな政変があるのでしょうか。穏やかに過ごしたいと願うばかりです。

■昨年末、会ったばかりの長年の友人に急逝され脱力感を抱えた新年になりました。そこに北陸の震災のニュース。二つの大きな戦争も続いていて、どうも幸先の良くない正月になってしまったようです。日本も世界も力オス化が止まらない時代。何とか希望を持ち続けたいものです。

■私も85歳になりました。母子家庭に育ち15歳、中卒で働いて83歳まで68年間働いてきました。現在の政権では、金のない老人は早く死ぬという事です。言葉は悪いかも知れませんが、また誤解を与えかねませんが安倍元総理を殺めた犯人を私は憎めません。貧しい人間も生きられる様頑張ってください。私も妻を介護しながら頑張ります。

■今年も良い年でありますようになどという、根拠のない希望の言葉など吹き飛ばしてしまおうな一年の始まりになってしまいました。能登半島地震では日本はどこでも巨大地震が起きると言うことを改めて思い知らされました。東日本大震災の後、頭ではわかっていたつもりでも、ニュース映像で現地の悲惨な状況を見るたびに再認

識させられます。もし、「珠洲に原発が建設されていたら、あるいは志賀原発が稼働中であつたら」と考えると恐ろしい限りです。震源からは離れた志賀で最大2828ガル(振動の激しさをあらわす数値)の地震動を観測したということですから稼働中だつたら大変な惨事が起つていても不思議ではありません。どこでも巨大地震が起りうるこの日本で原発再稼働、さらには新増設への動きなど許されません。道路の崩壊、港の損壊により、現地への支援物資の輸送も思うようになてきていないとの報道もありますが、そのような状況では、原発事故が起つた場合の住民の避難などが敏速にできるはずがありません。多くの立地自治体で、避難計画が立てられないでいること理由が今回の能登半島地震で明らかです。悲惨な災害から、未来へ向けての教訓を学びとらなければ、またフクシマが起きてしまいます。

■どんな政治・経済状況になるかわかりませんが、今年も奮闘してまいります。共にがんばりましょう。

■2月号で200号になるとのこと、福島の皆さんに心より敬意を表します。「継続は力」、それは現役時代の組合活動が原点にあると思えます。希望の灯を今後とも掲げ続けましょう。新年早々最大震度7を記録した能登半島地震には心を痛めます。街頭カンパの音が聞こえないのは、淋しく思います。昔だつたらと愚痴もいたくなりますが……。

